

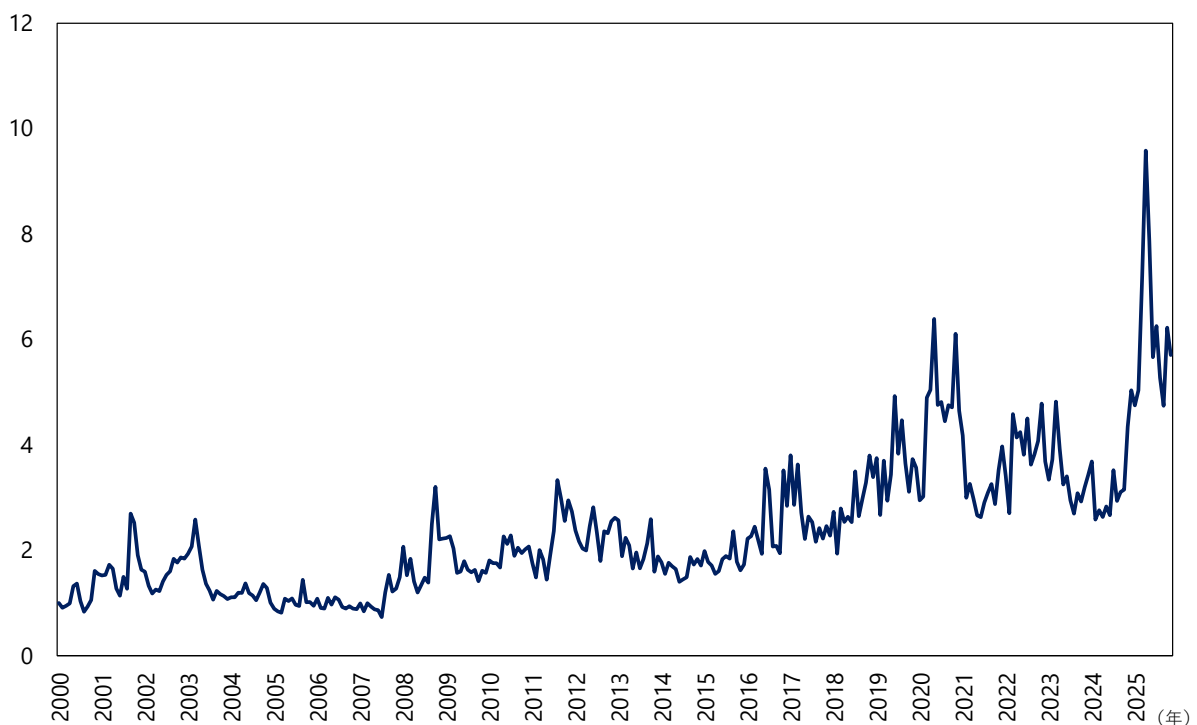
第2節 不確実性の高まり

現下の国際経済の特徴の一つは不確実性の高まりである。本節では、不確実性のうち、経済政策の不確実性と地政学リスクの動向について、これらの指数を用いながら動向を見る。

1. 経済政策不確実性

経済政策に係る不確実性を捉えるため、Baker et al. (2016) は経済政策不確実性指数 (Economic Policy Uncertainty Index) を開発した。経済政策不確実性指数は不確実性、経済、政策に関する用語を同時に含む新聞記事の数を過去に遡って集計し、指数化することで、当該国が直面する経済政策に係る不確実性の動向を捉える試みである。Economic Policy Uncertainty のウェブページにて、各国の政策不確実性指数が時系列データとして公開されている²。なお、当該指数は、当該国が直面する国内外の政策をめぐる不確実性を捉えているものであり、例えば A 国の不確実性指数の上昇が B 国の政策の不確実性の高まりによって引き起こされることもある。この特徴は、後に紹介する地政学リスク指数も同様であり、解釈には留意が必要である。

第 1-1-2-1 図 世界の経済政策不確実性指数

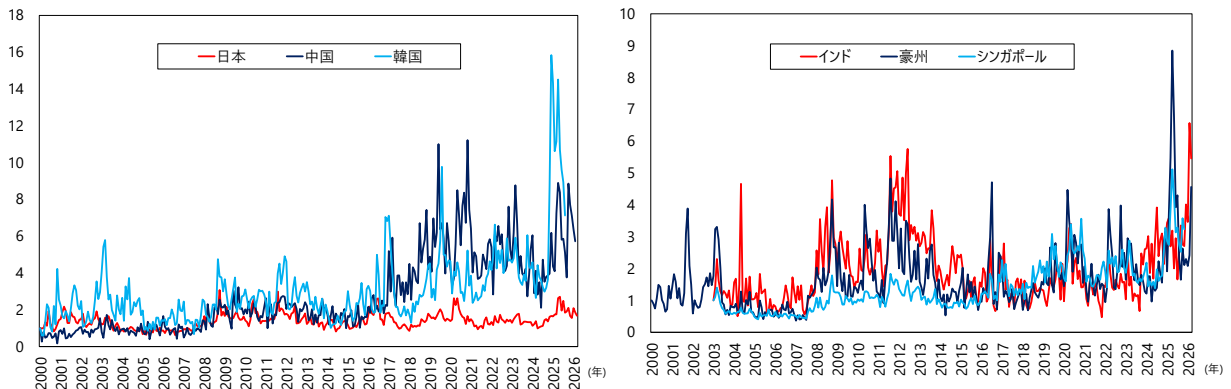


備考：2000年1月の水準を1として基準化している。

資料：Economic Policy Uncertainty から作成。

² Economic Policy Uncertainty のウェブページ (<https://www.policyuncertainty.com/>) にて、各国の指数が公開されている。

第1-1-2-2 図 経済政策不確実性指数（アジア）



備考：2000年1月の水準を1として基準化している（インドとシンガポールは2003年1月の水準を1として基準化）。

資料：Economic Policy Uncertainty から作成。

第1-1-2-1 図は2000年以降のグローバルでの経済政策不確実性指数を示している（2000年1月の水準を1として基準化した）。グローバルでの経済政策不確実性指数は、各国の経済政策不確実性指数をGDPでウェイト付けすることで算出されている³。図が示すとおり、グローバルでの経済政策不確実性指数は上昇傾向を示しており、足下では2000年以降最高の水準を記録している。世界経済が直面する経済政策の不確実性が上昇基調にあることが示唆される。

一方、経済政策不確実性指数は国によって異なる傾向を持つことから、各国の状況を確認する。第1-1-2-2 図は、アジアの国々の経済政策不確実性指数を示している。日本の経済政策不確実性指数は横ばい傾向を見せる一方、中国、韓国、シンガポールの経済政策不確実性指数は上昇傾向にあることが分かる。インド及び豪州の経済政策不確実性指数はこの期間において上下しており、上述のような明確なトレンドは見られないが、インドについては近年指数は上昇傾向にあり、豪州についても高い水準の指数を記録している。

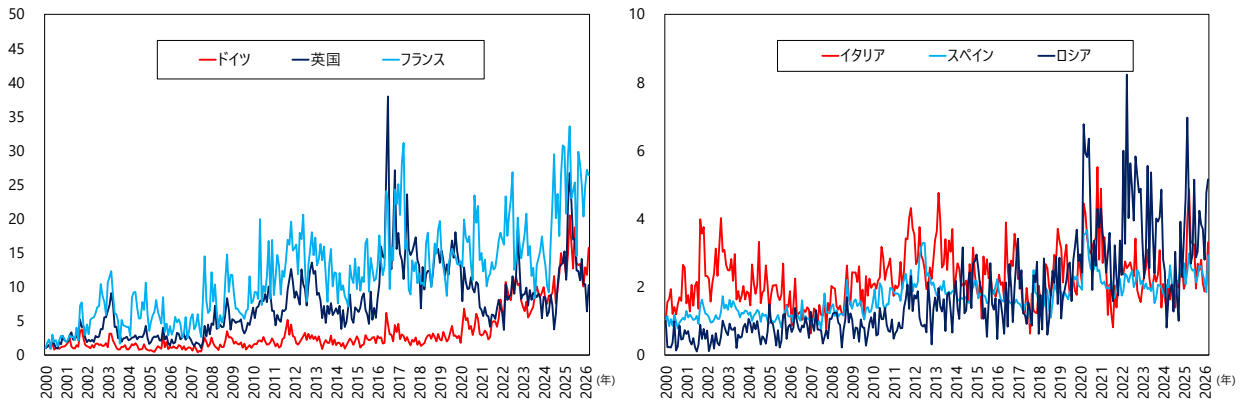
第1-1-2-3 図は欧州各国及びロシアの経済政策不確実性指数を示している⁴。第1-1-2-3 図によれば、ドイツ、フランス、スペイン、ロシアにて経済政策不確実性指数が上昇傾向にあることが分かる。また、第1-1-2-4 図は北米及び南米の国々の経済政策不確実性指数を示しており、米国、メキシコ、カナダ、ブラジルでは、2025年に高い水準の指数を記録していることが分かる。

これらの図が示すとおり、経済政策不確実性指数の動向には国ごとに異質性があり、特にいくつかでは上昇基調にあることが分かる。また、米国を始めとして、近年高い水準の不確実性を記録している国々もある。総じて見ると、経済の規模が大きい国々で、経済政策不確実性指数の上昇傾向若しくは近年における高水準の推移が確認される。

³ 詳細は Economic Policy Uncertainty のウェブページを参照。当該図では、名目 GDP（current-price GDP）で重み付けをした結果を示しているが、購買力平価調整された GDP（PPP-adjusted GDP）を用いた結果においても同様の上昇傾向が確認される。

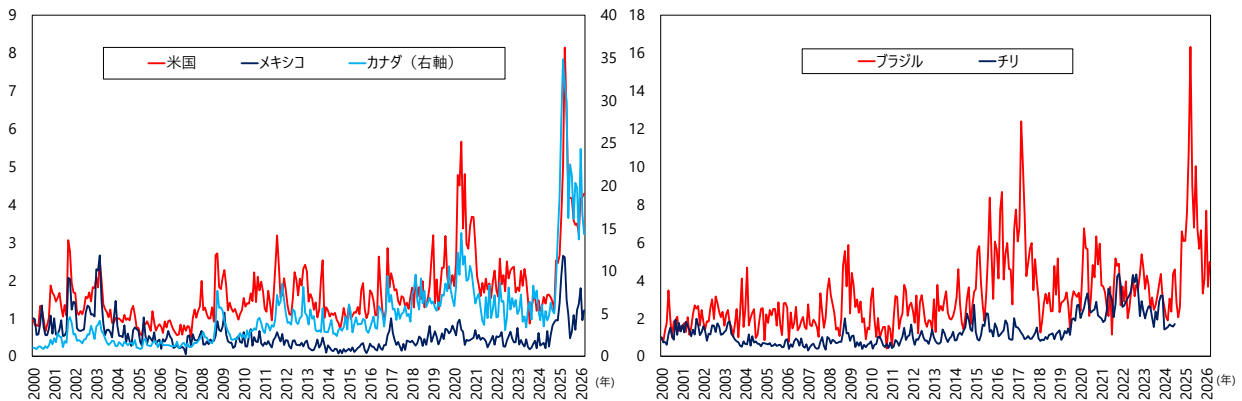
⁴ 以下も断りがない限り、各国ごとに2000年1月の水準を1として基準化している。

第 1-1-2-3 図 経済政策不確実性指数（欧州、ロシア）



備考：2000年1月の水準を1として基準化している。
資料：Economic Policy Uncertainty から作成。

第 1-1-2-4 図 経済政策不確実性指数（北米・南米）



備考：2000年1月の水準を1として基準化している。
資料：Economic Policy Uncertainty から作成。

2. 地政学リスク

経済政策に係る不確実性のみならず、地政学リスクへの関心も近年高まりを見せている。こうした地政学リスクの変化を把握するため、Caldara and Iacoviello (2022) は地政学リスク指数 (Geopolitical Risk Index) を開発した。Caldara and Iacoviello (2022) は Baker et al. (2016) と同様のアプローチにより、米国と英国、カナダで発行されている新聞の記事を利用して地政学リスクの定量化を試みている。地政学リスク指数は、Geopolitical Risk Index のウェブページにて、時系列データが公開されている⁵。

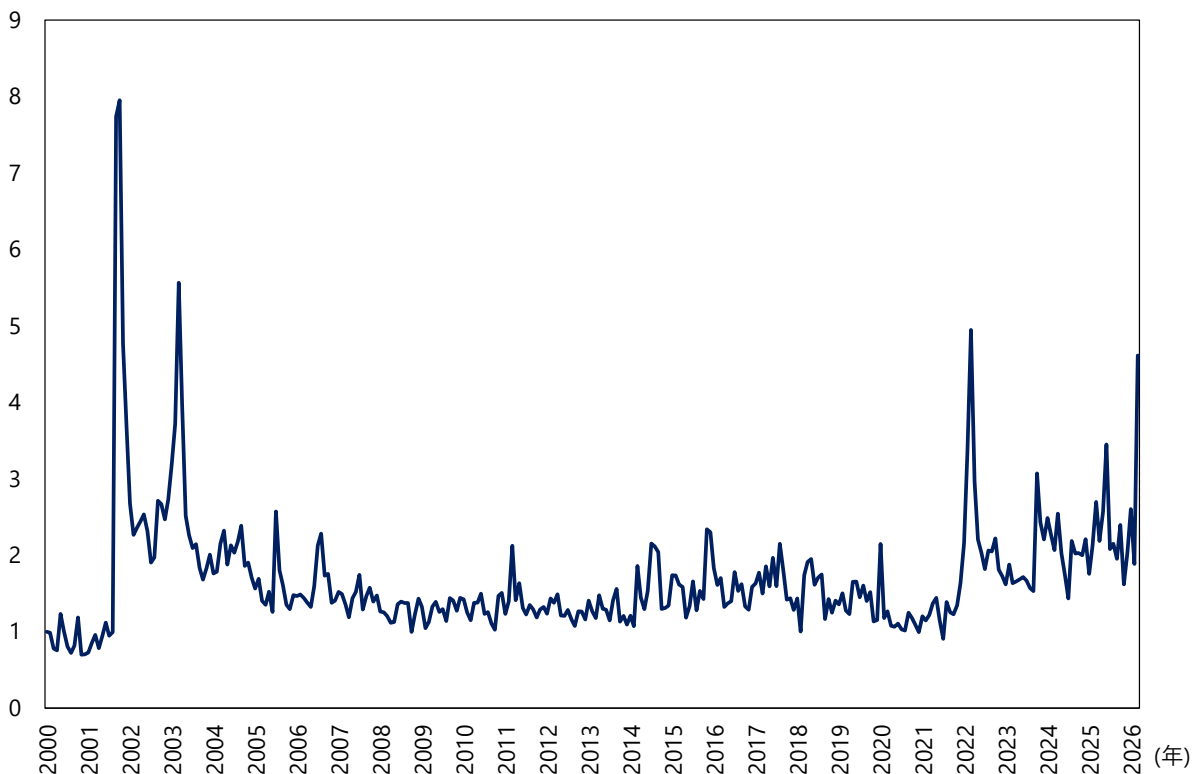
第 1-1-2-5 図はグローバルでの地政学リスク指数を示している（2000年1月の水準を1として基準化している）。いくつかの点で特に高い値を出しており、これらは2001年に発生した米国同時多発テロ、2003年のイラク戦争、2022年のロシアによるウクライナ侵略、2026年の米国・イスラエルとイランの軍事衝突などに対応していると考えられる。特に、

⁵ Geopolitical Risk Index のウェブページ (<https://www.matteoiacoviello.com/gpr.htm>) にて、指数が公開されている。

2022年以降、グローバルでの地政学リスク指数は、2010年代と比較して高い水準で推移していることが分かる。

地政学リスク指数についても国ごとにその傾向を把握することが重要である。第1-1-2-6図、第1-1-2-7図、第1-1-2-8図、第1-1-2-9図は、それぞれアジア、欧州及びロシア、北米及び南米、中東の地政学リスク指数を示している。各国が直面する状況に合わせて指数が上下しており、例えば、ロシアによるウクライナ侵略と同時期に、ドイツ、英国、フランスは高い水準の指数を記録している。

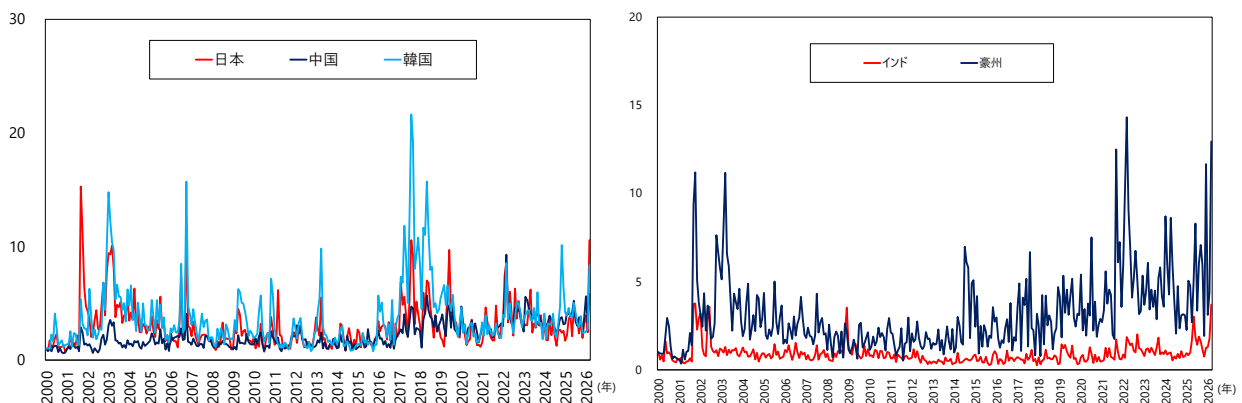
第1-1-2-5図 地政学リスク指数（グローバル）



備考：2000年1月の水準を1として基準化している。

資料：Geopolitical Risk Index から作成。

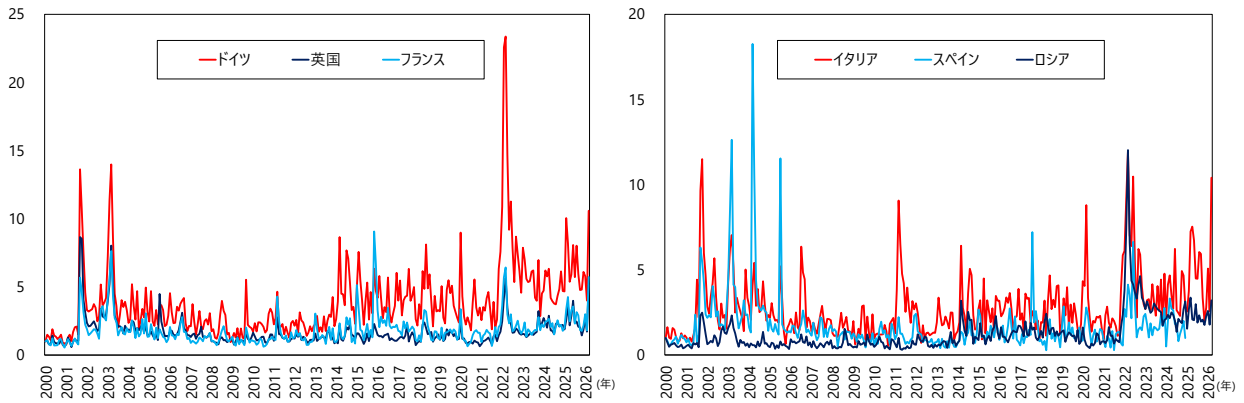
第1-1-2-6図 地政学リスク指数（アジア）



備考：2000年1月の水準を1として基準化している。

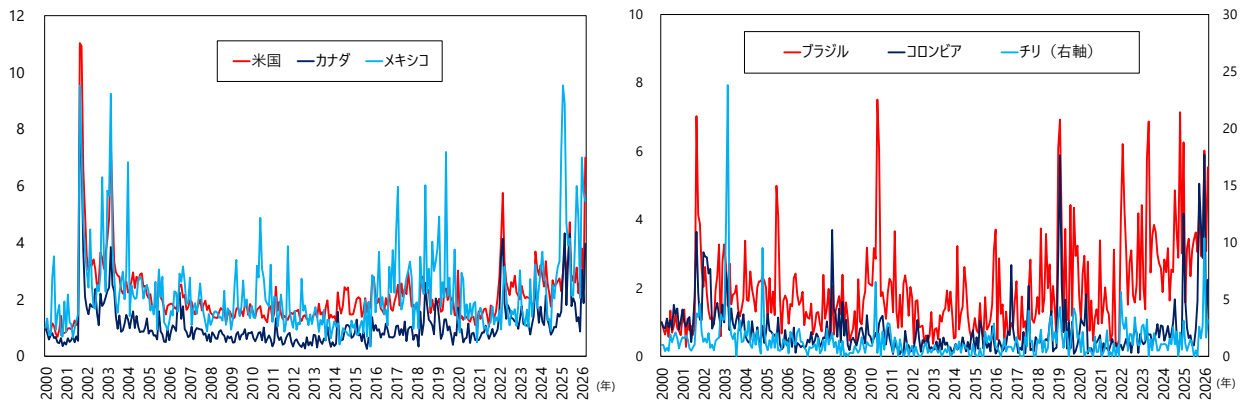
資料：Geopolitical Risk Index から作成。

第1-1-2-7 図 地政学リスク指数（欧州、ロシア）



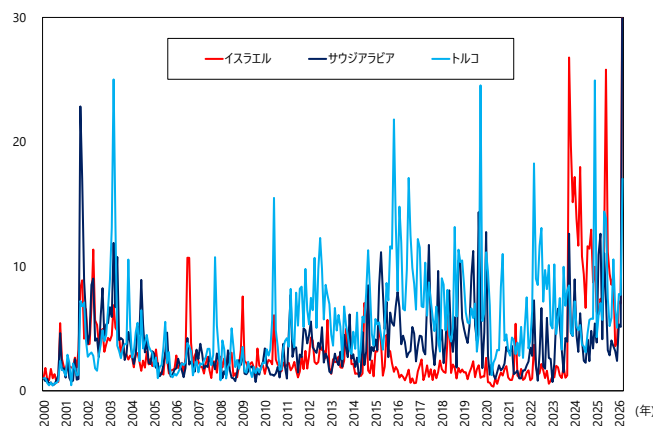
備考：2000年1月の水準を1として基準化している。
資料：Geopolitical Risk Index から作成。

第1-1-2-8 図 地政学リスク指数（北米、南米）



備考：2000年1月の水準を1として基準化している。
資料：Geopolitical Risk Index から作成。

第1-1-2-9 図 地政学リスク指数（中東）



備考：2000年1月の水準を1として基準化している。
資料：Geopolitical Risk Index から作成。